



## ～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

**平成24年度後期研究サポーター利用者が決定しました。**  
サポーター利用者は4名(育児理由:3名 介護理由:1名)です。  
平成24年度後期の利用申請受付は終了しましたが、不測の事態が生じた場合は、サポート室までご相談ください。

**女性が日本を救う?** IMFのレポートによると、女性の社会参加が、日本の再生の鍵になるそうです。日本は、どの国よりも急速な高齢化が進みさらに少子化で働く人の数や生産年齢人口は激減すると予測されており、2050年にはピーク時の4割落ち込み、GDPは、他のアジア諸国を下回るという見方もあるそうです。  
労働力の縮小を食い止める手段が埋もれた潜在力、女性の活躍を促すことだそうです。それを実現するには2つのハードルの解消が重要で、1つは、国際的にも極端に少ない女性管理職や役員を増やすこと。2つ目は、家庭と仕事の両立支援の充実で、柔軟な働き方や保育サービスが整えば、出産後に仕事を辞める女性を減少することができるといわれています。

2012年10月17日放送のNHKクローズアップ現代より

## セミナー開催のお知らせ

『 第4回九州・沖縄アイランド  
女性研究者支援シンポジウムin大分 』  
つづけること、つながること九州・沖縄の絆のちから  
～研究者が能力を発揮して輝くために～

【日 時】：平成24年12月15日(土) 13:00～17:00

【会 場】：レンブラントホテル大分 久住の間

【参加者】：一般及び大学関係者 入場無料、託児あり  
(事前申込み制 定員100名)

【特別講演】

地域社会で育む女性研究者支援のための特別講演

演題：「銀座のママから学ぶ人間力」

講師：白坂 亜紀氏 (大分県竹田市出身)



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

**経済学部 准教授 大呂 興平さん**

## 『 女性の社会進出と男性』



この10月から、女性研究者サポート室の研究サポーター制度を利用させて頂くことになった。男性研究者である私が、女性研究者を念頭に置いている(であろう)サポーター制度を利用するのはためられたが、背に腹は代えられない。

妻は市内で私以上に忙しく働いている。4才になる子どもの保育園の送迎は主に自分の役割である。毎日18時前には大学を出なければならず、5限の終わりにもなると学生より自分がソワソワしてくる。保育園に迎えにいくと、子どもが飛びついてくる。一日中保育園にいななければならない子どもにとって、親にはとても甘えたいはずだ。それから22時までには子どもとの時間となる。原稿の締切に追われている時は、18時からの中断は特にキツイ。中断後、執筆に頭を戻すのは至難の業である。

女性の社会進出は、社会進出した妻を持つ夫の仕事に、大きな時間的制約がかかることも意味している。女性と比べて、男性は等しくバリバリ仕事をする前提で世の中が回っているぶん、正直なかなか難しい。サポーター制度を有り難く使わせて頂こうと思う。